

ことの終わり

この「起業アドバイザー便り」も本号で 120 号となり、10 ヶ年続けてまいりまいて、今回で一区切りと致します。

思い起こせば当時は、新興上場企業やその若手の代表が株式市場でわがもの顔に振舞い、それをマスコミやマスメディアが面白おかしく報じていた騒がしい世相でした。また、書店には若手実業家と称する人の虚実が混ざったノウハウ本や、サクセスストーリーの書籍が平積みされて、本来的な実業としての経営のあり方を求めて歩む私にとって、少なからずの疑問と違和感を持っていた時期でした。

なぜなら経営とは地道に一步一步の前進が基本ですし、その入口たる起業・独立においては、自分の将来を見越して、より冷静に確実に処していくべきと創業以降考えて、実践して来ましたのでなお一層の強い思いでした。

そして冷静に考えてみますと、まだまだ知識の浅い若い人たちが抱く起業というものに対して、TV や新聞、雑誌などのマスコミ全体が正しい情報を伝えていないと気づかされました。また、これまで書店に平積みされている出版社の濫造気味の、IT ビジネスや M&A 関連誌の数多くのサクセスストーリー本では、真の起業家の声は届かないし、届いていないと思われました。その理由は、起業、経営を理解していない「書き手」の知識と思いの欠落があると分かりました。

そこで私は自分で出来ることは何かと問い、当時スタートさせたばかりのメールマガジン (S/magazine) に、私の起業と経営の経験から学んださまざまのことがらと、これから起業をめざすまた事業をスタートさせた人達へのメッセージとして掲載が始まったわけです。

こうして 10 ヶ年を経過したわけですが、当時に比べ若い男女のアントレプレナー (起業家) は日増しに出現し、サポートする環境も少しずつ整備され、起業の手段も多岐多様な世の中になってまいりました。

私としては平成 23 年 (2011) 1 月に私家版 **若きアントレプレナーに贈る「起業アドバイザー便り」** 2005. 11~2011. 1 (No.1~No.63) を纏め、平成 25 年 (2013) 7 月に法令出版社より **塩原勝美の「起業いろは塾」-新しい自分の形 独立・起業への挑戦-**を上梓することが出来ました。

これらを含め、10 ヶ年間を過ぎ、ともかくこうして 120 号になり一度も欠号せず「ことの終り」を処することが出来ましたことを、幸いなるかなとの思いで安堵しております。